

科目名	臨床実習Ⅲ					単位数	16	時間数	640	
授業形態	実習	対象学生	OT 4年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	各実習施設
授業概要	医療・福祉関連の実習施設で、基本的な作業療法過程を経験する。 実習終了後、他科目で作成したレジメを利用した事例報告、担当症例に対する口頭試問、基礎知識の修得を確認するCBTを実施する。									
一般目標	各疾患における評価、治療目標の設定、治療計画の立案、さらには治療実施を通じて、作業療法の基本的知識・技能の習得をはかることができる。また、職業人・専門職としての基本的な態度の習得をはかることができる。									
テキスト 参考書等	臨床実習Ⅲガイドブック 適宜、資料を配布する。									

到達目標										
知識(認知領域) ・対象者の疾患と治療の概要を説明できる。 ・対象者について、一般的な治療までの過程が説明できる。 ・国家試験(OT専門、直近5年程度)過去問は解答できる。										
技術(精神運動領域) ・対象者について、評価、治療目標の設定、治療計画の立案ができる。										
態度(情意領域) ・実習に意欲的に参加できる。 ・課題等を期日までに提出できる。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	各実習施設での実習 実習期間 Ⅰ期:2026年5月11日(月)～7月3日(金) Ⅱ期:2026年7月23日(木)～9月18日(金)	目標 <評価> ・対象者の疾患と治療の概要を理解する。 ・担当事例特有の症状とそれに対する医学的治療方針もしくは支援方針を理解する。 ・必要な面接、観察、検査、測定の項目を列挙する。 ・面接、観察、検査、測定の項目を列挙する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を記録する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を基に問題点を列挙する。 ・問題点を整理する。 <目標設定> ・障害の変化を予測する。 ・長期目標を設定する。 ・短期目標を設定する。 <治療計画の立案> ・必要な治療や指導を列挙する。 ・実施する治療計画を具体的に立案する。 <管理運営> ・組織の概要を理解する。 ・作業療法の過程を理解する。 ・管理業務の概要を理解する。 成績判定 ・報告会:実習後、概ね2週間後に実施する。レジメを利用して、実習経験を報告することができる(通常は対面形式で、必要に応じてオンライン形式で実施)。適宜、質問に回答できる。 ・口頭試問:報告会后に実施する(通常は対面形式で、必要に応じてオンライン形式とする)。 教員の質問に対して適切に回答することができる。	「臨床実習Ⅲガイドブック」を熟読し、実習の目的・注意事項を理解しておく。実習施設に関連した疾患をいくつか列挙し、疾患について、評価法、作業療法治療、リスクについて学習しておく。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			実習で得た学びを整理し、レジメにまとめ、発表に向けて内容を深める。自身の至らなかった点に関して洞察し、課題克服に向けて何が必要か考える。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			50	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品	○			50	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として病院や通所・訪問での実務経験がある。	

科目名	作業療法総括演習B					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 4年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	201教室・ADL室・レクリエーション室
授業概要	臨床実習(総合実習)に挑むために必要な心構えの醸成、必要書類の作成を行う。 実習施設の特性を理解するために、実習前に領域別実習対策講座を受講し、実習遂行に必要な知識、技能を修得する。									
一般目標	①実習準備ができる。 ②実習先の特性に応じた学習をおこない、臨地での実習活動に備える。 ③国家試験に準じた学習(臨床医学、評価学、治療学)を行い、総合臨床実習に赴く学生として相応しいレベルでの基礎的知識の定着を図る。									
テキスト 参考書等	適宜指示									

到達目標										
知識(認知領域) 臨床実習に赴く学生として必要な知識を得る。										
技術(精神運動領域) 臨床実習に必要な資料等を揃え、実習に備えることができる。										
態度(情意領域) 主体的に実習に関する準備を行うことができる。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(30分) 実習領域の疾患情報を整理する。(30分)
2	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(31分) 実習領域の疾患情報を整理する。(31分)
3	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(32分) 実習領域の疾患情報を整理する。(32分)
4	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(33分) 実習領域の疾患情報を整理する。(33分)
5	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(34分) 実習領域の疾患情報を整理する。(34分)
6	実習準備学習 領域別実習対策講座	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。 領域別実習対策講座を受講し、実習施設や対象者の特性を理解できる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(35分) 実習領域の疾患情報を整理する。(35分)
7	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(36分) 実習領域の疾患情報を整理する。(36分)
8	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(37分) 実習領域の疾患情報を整理する。(37分)
9	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(38分) 実習領域の疾患情報を整理する。(38分)
10	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(39分) 実習領域の疾患情報を整理する。(39分)
11	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(40分) 実習領域の疾患情報を整理する。(40分)
12	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(41分) 実習領域の疾患情報を整理する。(41分)
13	実習準備学習 領域別実習対策講座	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。 領域別実習対策講座を受講し、実習施設や対象者の特性を理解できる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(42分) 実習領域の疾患情報を整理する。(42分)
14	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(43分) 実習領域の疾患情報を整理する。(43分)
15	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。	臨床医学の基礎知識を予習する。(44分) 実習領域の疾患情報を整理する。(44分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート		○		100	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として臨床経験を有し医療機関で実習生の指導経験あり。 日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了		

科目名	作業療法総括演習C					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	201教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。									
一般目標	・各種試験に対応する分野を学習し知識を習得する。 ・各種試験を定期的の実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 ・教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。									
テキスト 参考書等	・クエスチョンバンク共通問題、クエスチョンバンク専門問題(メディックメディア) ・PTOT国家試験必修ポイント基礎OT学、障害別OT治療学(医歯薬出版) ・適宜資料配布									

到達目標
知識(認知領域) ・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識について説明できる。 ・作業療法士国家試験の過去問題で合格点を取得できる。 ・専門基礎・専門分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。
技術(精神運動領域) ・学修到達度を把握した上で、継続でき、現実可能性のある自己学習計画を立案できる。
態度(情意領域) ・国家試験に向け、積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。 ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	講義オリエンテーション 模試や国家試験受験に関する対策講義	本講義の内容を理解し、説明できる。 国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	昨年度の国家試験の問題形式を確認する(30分)。 オリエンテーションの内容を再確認する(30分)。
2	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで解剖学を予習する(30分)。 講義で扱った過去問の誤答を解き直す(30分)。
3	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで生理学を予習する(30分)。 小テストに向けて重要語句を復習する(30分)。
4	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで運動学を予習する(30分)。 運動学の基礎知識と図記号を復習する(30分)。
5	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで病理学を予習する(30分)。 専門分野の小テスト対策を行う(30分)。
6	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで作業療法学を予習する(30分)。 頻出疾患の病態について理解を深める(30分)。
7	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで内科学を予習する(30分)。 内科学の各疾患の症状を整理する(30分)。
8	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで整形外科学を予習する(30分)。 骨折や疾患の評価法を再確認する(30分)。
9	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで身体障害OTを予習する(30分)。 身体障害領域の小テストに備える(30分)。
10	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで精神障害OTを予習する(30分)。 精神科疾患の治療理論を整理する(30分)。
11	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで発達障害OTを予習する(30分)。 小テストの誤答箇所を重点的に復習する(30分)。
12	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで高齢期OTを予習する(30分)。 高齢期の疾患と評価を復習する(30分)。
13	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムで人間発達学を予習する(30分)。 各発達段階の特徴を一覧表で整理する(30分)。
14	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	e-ラーニングシステムでADL・自助具を予習する(30分)。 評価尺度と適応する自助具を復習する(30分)。
15	模試や国家試験受験に関する対策講義	国家試験過去問を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。小テストで合格点を取得できる。	自己学習計画の進捗状況を確認する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト	○			100	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として、医療・教育機関での経験を有している。また、国試指導の経験もある。		

科目名	臨床実習セミナーⅢA					単位数	2	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	201教室	
授業概要	臨床実習(総合実習)に挑むために必要な心構えの醸成、必要書類の作成を行う。									
一般目標	臨床実習の内容・目標が理解できる。									
テキスト 参考書等	適宜配布									

到達目標										
知識(認知領域) 臨床実習の内容・目標が理解できる										
技術(精神運動領域) ・必要書類を要綱に則り作成することができる。 ・提出物を期限内に提出することができる。										
態度(情意領域) 総合臨床実習に赴くために必要な意欲、態度、倫理感を身に着けることができる。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション、実習目標・実習課題、実習に関わる規定・実習注意事項、デリーノート・ケースレポート指針説明について	臨床実習Ⅲの流れと成績判定、実習目標・実習課題、実習に関わる規定・実習注意事項、デリーノート・ケースレポート作成要項について説明を受け理解することができる。	実習の全体目標を確認する。(30分) 課題作成の指針を復習する。(30分)
2	1期実習施設の情報収集	実習地の情報を実習施設情報シートに落とし込み、実習地の特性や領域を把握することができる。	実習地の情報をHPにて確認する。(30分) 施設の情報を整理する。(30分)
3	1期実習施設への事前連絡、準備	実習地への電話連絡を行い、臨床教育者から実習に必要な情報が得られる。それを基に必要な準備ができる。	施設連絡のマナーを予習する。(30分) 施設からの情報を整理する。(30分)
4	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。	基礎知識をテキストで復習。(30分) 実技の手技を繰り返し練習。(30分)
5	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。	評価学の基礎を再確認する。(30分) 評価のポイントを復習する。(30分)
6	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。	治療学の基礎を再確認する。(30分) 実技の力加減を振り返る。(30分)
7	1期実習直前オリエンテーション(壮行会)	実習に赴くために必要な事項について最終点検(移動手段、持参物、事前課題など)を行うことができる。	持参物と移動手段を確認。(30分) 事前課題の最終点検を行う。(30分)
8	1期実習後ゼミ(振り返り)提出物の確認・お礼状作成	実習終了後、提出物(デリーノート、ケースノート、出席表、チェックリストなど)をまとめ直して、提出できる。実習地へのお礼状を作成し、提出できる。	実習提出物を一式まとめる。(30分) お礼状の作成法を復習する。(30分)
9	2期実習施設の情報収集	実習地の情報を実習施設情報シートに落とし込み、実習地の特性や領域を把握することができる。	実習地の情報をHPにて確認する。(30分) 施設の情報を整理する。(30分)
10	2期実習施設への事前連絡、準備	実習地への電話連絡ができる。臨床教育者から実習に必要な情報を得られる。それを基に必要な準備ができる。	2期施設の情報を予習する。(30分) 必要な準備物を整理する。(30分)
11	2期実習直前オリエンテーション(壮行会)	実習に赴くために必要な事項について最終点検(移動手段、持参物、事前課題など)を行うことができる。	2期の事前課題を確認する。(30分) 実習時の倫理観を復習する。(30分)
12	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。	運動学の基礎を再確認する。(30分) 評価手技の練習を復習する。(30分)
13	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。	解剖学の基礎を再確認する。(30分) 実技の注意点を振り返る。(30分)
14	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。	実習規定を再度予習する。(30分) 提出物の不備がないか確認。(30分)
15	2期実習後ゼミ(振り返り)提出物の確認・お礼状作成	実習終了後、提出物(デリーノート、ケースノート、出席表、チェックリストなど)をまとめ直して、提出できる。実習地へのお礼状を作成し、提出できる。	2期の実習記録をまとめる。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート		○		100	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士としての臨床経験を有し、医療機関で実習生の指導経験あり。 日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了	

科目名	臨床実習セミナーⅢB					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	201教室・レクリエーション室
授業概要	臨床実習において担当した症例について、知りえた情報をもとにレジメ(ポートフォリオ)を作成し、それを通して症例に対してより理解を深める。									
一般目標	・レジメを作成することができる。 ・事例報告会、口頭試問に向け事前準備を行うことができる。									
テキスト 参考書等	適宜配布									

到達目標										
知識(認知領域) レジメ作成、事例報告、口頭試問に必要な情報について学習し、理解することができる。										
技術(精神運動領域) レジメ作成要綱に則り、事例報告レジメを作成することができる。										
態度(情意領域) 意欲を持って臨む。										
回数	授業内容		授業目標					事前学習(上段)・事後学習(下段)		
1	オリエンテーション(レジメ作成指針)		レジメ作成要項の説明を受け、理解することができる。					レジメの基本構成を予習する。(30分) 作成要項の重要点を復習する。(30分)		
2	臨床実習ⅢⅠ期 レジメ作成		レジメ作成要項に則り、事例報告レジメを作成できる。					症例報告の基礎知識を予習する。(30分) 作成した下書きの内容を復習する。(30分)		
3	臨床実習ⅢⅠ期 レジメ作成		レジメ作成要項に則り、事例報告レジメを作成できる。					評価項目の記載順序を予習する。(30分) レジメの体裁と誤字を復習する。(30分)		
4	臨床実習ⅢⅠ期 レジメ作成		レジメ作成要項に則り、事例報告レジメを作成できる。					専門用語の正しい表記を予習する。(30分) 修正したレジメ内容を復習する。(30分)		
5	臨床実習ⅢⅠ期 事例報告会準備		事例報告に必要な準備を行うことができる。					事例報告の発表手順を予習する。(30分) 質疑応答の想定回答を復習する。(30分)		
6	臨床実習ⅢⅠ期 口頭試問準備		口頭試問に必要な準備を行うことができる。					評価根拠の基礎知識を予習する。(30分) 自身の症例の解釈を復習する。(30分)		
7	臨床実習ⅢⅠ期 口頭試問準備		口頭試問に必要な準備を行うことができる。					解剖・運動学の基礎を予習する。(30分) 試問で問われる疾患知識を復習。(30分)		
8	臨床実習ⅢⅠ期 振り返り		指摘事項を踏まえた上で、事例報告レジメを修正できる。					指摘が予想される箇所を予習。(30分) 指摘事項を整理し修正内容を復習。(30分)		
9	臨床実習ⅢⅡ期 レジメ作成		レジメ作成要項に則り、事例報告レジメを作成できる。					第2期の症例情報を整理し予習。(30分) レジメ構成案を再度復習する。(30分)		
10	臨床実習ⅢⅡ期 レジメ作成		レジメ作成要項に則り、事例報告レジメを作成できる。					治療目標の立て方を予習する。(30分) 実施した介入の根拠を復習する。(30分)		
11	臨床実習ⅢⅡ期 レジメ作成		レジメ作成要項に則り、事例報告レジメを作成できる。					文章表現の適切性を予習する。(30分) 完成したレジメを読み復習する。(30分)		
12	臨床実習ⅢⅡ期 事例報告会準備		事例報告に必要な準備を行うことができる。					提示用レジメの順序を予習。(30分) 発表時の時間配分を復習する。(30分)		
13	臨床実習ⅢⅡ期 口頭試問準備		口頭試問に必要な準備を行うことができる。					評価結果の統合と解釈を予習。(30分) 試問対策として基礎知識を復習。(30分)		
14	臨床実習ⅢⅡ期 口頭試問準備		口頭試問に必要な準備を行うことができる。					疾患別の作業療法理論を予習。(30分) 口頭での論理的な説明を復習。(30分)		
15	臨床実習ⅢⅡ期 振り返り		指摘事項を踏まえた上で、事例報告レジメを修正できる。					修正後の完成度を最終予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い試験に備える。(30分)		

成績評価方法						
		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					評価なし	秀(4):90点以上
小テスト					評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート			○		100	良(2):70～79点
授業態度				○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品					評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習					評価なし	
出席				○	欠格条件	
担当教員			実務経験紹介		作業療法士として臨床経験を有する。また、医療機関で実習生の指導経験あり。 日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了	

科目名	国家試験対策セミナーA					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	201教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。									
一般目標	・各種試験に対応する分野を学習し知識を習得する。 ・各種試験を定期的の実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 ・教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。									
テキスト 参考書等	・クエスチョンバンク共通問題、クエスチョンバンク専門問題(メディックメディア) ・PTOT国家試験必修ポイント基礎OT学、障害別OT治療学(医歯薬出版) ・適宜資料配布									

到達目標	
知識(認知領域)	
・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識について説明できる。 ・専門基礎・専門分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。	
技術(精神運動領域)	
・学修到達度を把握した上で、継続でき、現実可能性のある自己学習計画を立案できる。	
態度(情意領域)	
・国家試験に向け、積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。 ・授業に出席する。	

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	国家試験対策オリエンテーション	国家試験に関する概要(試験範囲、合格基準、問題傾向)を理解する。また、今後の国家試験対策の流れを理解する事ができる。	国家試験の概要と過去の傾向を予習する(30分)。 試験範囲と合格基準、学習計画を復習する(30分)。
2	合格可能性検定試験①に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	関連分野のテキストを読み基礎を確認する(30分)。 講義で示された重要事項と基礎を復習する(30分)。
3	合格可能性検定試験①のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	検定試験①の自己採点と弱点を把握する(30分)。 解説をもとに誤答箇所の知識を再確認する(30分)。
4	合格可能性検定試験②に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	専門分野の解剖・運動学の基礎を予習する(30分)。 指導された内容をもとに苦手分野を復習する(30分)。
5	合格可能性検定試験②のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	検定試験②の問題を見直し予習を行う(30分)。 正解・不正解の根拠をノートにまとめ復習する(30分)。
6	合格可能性検定試験③に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	各種試験に対応する分野のテキストを伺む(30分)。 講義で解説された専門知識を深く復習する(30分)。
7	合格可能性検定試験③のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	検定試験③の不明点をリストアップする(30分)。 フィードバック内容を整理し知識を定着させる(30分)。
8	合格可能性検定試験④に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	国家試験水準の多肢選択問題を予習する(30分)。 個別指導で得た助言をもとに知識を復習する(30分)。
9	合格可能性検定試験④のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	自身の到達度を把握し苦手分野を確認する(30分)。 習得不十分な領域について重点的に復習する(30分)。
10	業者模試(医歯薬①)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	過去の模試傾向を参考に基礎を予習する(30分)。 模試対策講義の内容を整理し復習する(30分)。
11	業者模試(医歯薬①)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	模試の結果から自身の現在地を確認する(30分)。 選択肢ごとの根拠を明確にして復習する(30分)。
12	合格可能性検定試験⑤に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	基礎作業療法学などの関連書籍を予習する(30分)。 講義で扱った応用問題の解法を復習する(30分)。
13	合格可能性検定試験⑤のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	検定試験⑤の回答を見直し予習する(30分)。 解説された専門分野の知識を再度復習する(30分)。
14	合格可能性検定試験⑥に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	障害別作業療法治療学の基礎を予習する(30分)。 試験直前の重要ポイントを整理し復習する(30分)。
15	合格可能性検定試験⑥のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	検定試験⑥の全問題を振り返り予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		養成校での国家試験対策講義を担当した経験あり。		

科目名	国家試験対策セミナーB					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	201教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。									
一般目標	・各種試験に対応する分野を学習し知識を習得する。 ・各種試験を定期的の実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 ・教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。									
テキスト 参考書等	・クエスチョンバンク共通問題、クエスチョンバンク専門問題(メディックメディア) ・PTOT国家試験必修ポイント基礎OT学、障害別OT治療学(医歯薬出版) ・適宜資料配布									

到達目標										
知識(認知領域) ・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識について説明できる。 ・専門基礎・専門分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。										
技術(精神運動領域) ・学修到達度を把握した上で、継続でき、現実可能性のある自己学習計画を立案できる。										
態度(情意領域) ・国家試験に向け、積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。 ・授業に出席する。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	合格可能性検定試験⑦に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	試験範囲のテキストを読み予習する(30分)。 講義で解説された重要事項を復習する(30分)。
2	合格可能性検定試験⑦のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	検定試験の自己採点と誤答分析を行う(20分)。 解き直した問題の根拠を再確認する(40分)。
3	業者模試(アイ①)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	模試の出題傾向をテキストで確認する(20分)。 解説講義の内容を整理して理解を深める(40分)。
4	業者模試(アイ①)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	模試の正答率が低い分野を抽出する(20分)。 苦手分野の基礎知識を再度復習する(40分)。
5	業者模試(三輪秋)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	三輪模試の範囲の基礎事項を予習する(30分)。 専門分野の重要ポイントを整理し直す(30分)。
6	業者模試(三輪秋)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	解答解説を読み苦手な分野を復習する(30分)。 間違えた問題の周辺知識をノートにまとめる(30分)。
7	合格可能性検定試験⑧に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	共通問題の基礎知識をテキストで予習する(30分)。 講義で示された内容を振り返る(30分)。
8	合格可能性検定試験⑧のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	自身の理解度と到達度を自己分析する(30分)。 誤答した選択肢の正解理由を説明する(30分)。
9	業者模試(アイ②)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	前回の業者模試を用いて復習内容を確認する(30分)。 講義で学んだ解法を過去問で実践する(30分)。
10	業者模試(アイ②)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	模試結果から学習計画を立て直す(30分)。 知識が不足していた分野を再学習する(30分)。
11	業者模試(医歯薬②)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	専門分野の疾患別知識を予習する(30分)。 指導された臨床推論の考え方を復習する(30分)。
12	業者模試(医歯薬②)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	記述が曖昧な専門用語を調べ直す(30分)。 模試の解説を確認し小テストに備える(30分)。
13	合格可能性検定試験⑨に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	直近の過去問を解き不明点を抽出する(30分)。 講義での指摘事項をノートに整理する(30分)。
14	合格可能性検定試験⑨のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	最終的な自己の弱点を明確にする(30分)。 知識の定着を確認するため復習を行う(30分)。
15	業者模試(三輪冬)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。	模試の総括を行い合格水準を確認する(10分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(50分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80～89点 良(2):70～79点 可(1):60～69点 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	実務経験紹介		養成校教員として国家試験対策講義を担当した経験あり。		